

謙讓表現「させていただく」の拡大的な用法について

—日本人母語話者の意識調査から—

(『言語の研究』1号)
2015年7月

李 韻珍

1. はじめに

「させていただく⁽¹⁾」は、「させる」という使役の助動詞に、「～てもらう」の謙讓表現である「～ていただく」が重なった言葉で、相手の許容を前提とした形式をとることで、謙讓の意味を表す表現である。近年、この言葉を日本のテレビやラジオ、新聞など、いわゆるマスメディアのみならず、公の場や店員、また、職場でのメールのやり取りなど、日常生活の中で頻繁に耳にする。様々なところでこの言葉を聞いたり、読んだり、自分が話したりしているということは、現代日本語の敬語運用全体の中で「させていただく」がかなり大きい役割を果たしていると考えられる。

しかし、この表現は、本来は謙讓表現であるにもかかわらず、「言わせていただきます」のように、場面によっては聞き手に対して、自分本位の主張をしているかのような表現にもなりうる。外国人にとっては、付けておけば丁寧な言い方になるという教育を受けてきたため、その使い方において誤解が生じやすい言葉であり、聞き手に対して誤解を与えるおそれのある表現の一つでもある。

また、この言葉は日本語学習者の外国人だけでなく、日本語母語話者である日本人の間においても用法にゆれのある表現である。菊池(1994)は、「お蔭様で今の会社に十年勤めさせていただいています」のような文は、話し手が自分の会社の上司や就職の世話をしてくれた人に話すなら良いが、社外の知人や会社に関係のない人に言うのは自分の会社を高めているかのようにとれ、違和感を感じさせるおそれがあると指摘している。

そこで、本稿では、謙讓表現としての本来の意味から拡大した「させていただく」の使い方を中心として、日本人母語話者における拡大的な用法としての「させていただく」に関する認識を調査し、その結果を基に「させていただく」がもつ特別な性質を明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

菊池(1997)では、「させていただく」の用法について以下のように分類している。

- (I) (本当に)“恩恵/許しをいただく”という場合(「もっとも基本的な使い方」)
例) すみませんが、先生の本を使わせていただけないでしょうか。

- (Ⅱ) “恩恵/許しを得てそうする”と捉えられる場合 (「拡張」)
 例) (パーティーの出欠の返事で) 出席させていただきます。
- (Ⅲ) “恩恵/許しを得てそうする”と (辛うじて) 見立てることができる場合
 例) (結婚式での、新郎の友人のスピーチ) 新郎とは十年來のおつきあいをさせていただいております。
- (Ⅳ) “恩恵/許しを得てそうする”とは全く捉えられない場合
 例) (近所の人に) 私どもは、正月はハワイで過ごさせていただきます。

菊地 (1997) は、(Ⅰ) ~ (Ⅲ) までは、「恩恵/許可を得てそうする」と捉え、その「恩恵/許可の与え手」を高めるという面では本来の使い方と共通であるが、「恩恵/許可」の捉え方がどの程度で成り立つかの違いと個人差が問題になると述べている。

しかし、(Ⅳ) については規範的には「誤り」であり、規範から離れた「新しい用法」の一つとしており、(Ⅰ) ~ (Ⅲ) は補語を高める機能をもつ謙譲語 A に当たるのに対して、(Ⅳ) は、聞き手に対し自分側の行為を低くして述べるだけの謙譲語 B であると位置づけている。また、本来は謙譲語 A であったが、動作の相手を高める機能を失って謙譲語 B になった語の例として「まいる」と「申す」を挙げるとともに、謙譲語 B である「一いたす」が非サ変動詞に接続不可能という制約がある問題点を指摘し、これらの原因によって「させていただく」の機能が変質したと述べている。

しかし、菊地 (1997) の分類では、(Ⅱ) と (Ⅲ) の境界線が曖昧でその区別が難しい。また、前述したように「させていただく」は、状況と場合によっては、敬語としての性質を失い、聞き手を圧迫しているかのような表現があるにもかかわらず、その用法については言及がない。したがって、菊地 (1997) の分類については、今改めて検討する必要があると思われる。

米澤 (2001) では、「~ (さ) せていただく」の拡大用法について、雑誌の小説などの会話を資料とし、「~ (さ) せていただく」の待遇表現性を中心に、語の使用状況から「使役 + 受給補助動詞」の考察を行い、拡大的な用法を以下のように三つに分類した。

A 話し手の行為の申し出

話し手は相手の利益のために自身が行為を行うことを申し出る際、実際には使役行為が存在しなくとも、表現上使役形の使用が見られる。

例) ご希望の方に資料をお宅まで無料でお送りさせていただきます。

(「毎日新聞」2000・6・15朝刊 広告欄)

B 話し手の行為遂行宣言

実際は話し手の自分本位な行為遂行が行われるが、形式上は相手の使役行為のもと遂行されたかのように表現される。

例) [司会者] それでは、発表させていただきます。

C 話し手の自分本位的な被使役行為者としての認識

話し手が自身の利益になる行為遂行が、恰も相手の意志、つまり使役行為により成就したかのように見せかける表現である。

例) [女性リポーター]「すごくいい旅で、リフレッシュできてすっかり元気にらせて戴きました。」

(「旅サラダ」ABC 2001・9・29放送)

また、米澤 (2001) は、この表現が頻用される理由として、相手との関わりを許可されるという形で表現することで、聞き手に対する丁寧さを重んじていることを積極的に示すことが重要視されているからであると述べている。しかし、「させていただく」の拡大的な用法を説明する場合に、「話し手の聞き手への配慮」だけで、論じることができるのかは疑問である。

3. 用語の定義

本稿では、菊地 (1997) の分類の (I) に該当する「させていただく」に相当する使い方を「本来の用法」とし、そうではないものを「拡大用法」と呼ぶことにする。その定義は以下の通りである。

- ・本来の用法 — 聞き手の許可・承諾・恩恵を得て、それを基に何かを行うと想定可能なときの使い方、また、話し手の行動に対し明確な使役者が存在するときの使い方
例) (質疑応答の際、司会者が挙手した人の中で一人を質問者として指名したときに指名された人が) ありがとうございます。では、質問させていただきます。
- ・拡大用法 — 聞き手、または、第三者の許可・承諾・恩恵を得たとかろうじて判断できるときと聞き手、または、第三者の許可・許し・恩恵を得たとはまったく判断できないときの使い方、また、話し手の行動に対し明確な使役者が存在しないときの使い方

例) (退職をしたいと思い、それを上司に話すときに) ちょっとお話があるのですが、これまでいろいろとお世話になりました。△△いっばいで□□を辞めさせていただきたいのですが. . .

4. 調査

4.1 調査方法および調査対象

本稿では、米澤 (2001) でいう「させていただく」の拡張表現⁽⁵⁾を中心とし、菊地 (1997) の4タイプのうち、(I)「(本当に)“恩恵/許しをいただく”という場合(「もっとも基本的な使い方)」

以外の項目に該当する「させていただく」が入る文について日本人母語話者がどのように意識しているのかの実態を調べるため、2013年7月～9月に、アンケート調査を実施した。調査対象を選ぶ際は、伊藤（2011）を参考とし、18歳以上の日本の大学生と大学院生とに限定した。その理由としては、表現の適格性に関して敏感かつ柔軟な使用がみられる世代であるという点、また、今後の変化の動向を探る意味においても有効なデータが得られることが期待されるためである。日本人の学生は、都内の大学と大学院（青山学院大学・慶應義塾大学・実践女子大学・首都大学東京・明治学院大学・東京大学・東京外国語大学・立教大学・その他）に在学中の18歳～26歳までの人で、アルバイトを除き、会社などで働いたことのない100名を対象とし、アンケート調査を行った。その結果は以下のとおりである（実数は人数を表す）。

表1 「させていただく」の使用頻度

性別		よく耳にするか		よく使用するか	
男	女	はい	いいえ	はい	いいえ
25	75	73	27	32	68

表2 「させていただく」の使用基準

使うとしたらどんなときに使うか	選択した人数 (重複選択可)
相手に敬意をもっているとき	84
適切な敬語が見つからないとき	27
自分の立場をよくしたいとき	4
相手に対して自分の品位を高くしたいとき	7
相手と距離をおきたいとき	10
相手に気兼ねするとき	23
相手に自分の意見を言いたいとき	13
その他（以下はその他のコメント） <ul style="list-style-type: none"> ・自分の立場を低くするとき。 ・接客するとき。 ・相手に何か許可を得るとき。（一方的にお願いするとき） ・何かをさせてもらうときなど、「させてもらう」を丁寧にいうとき。 ・相手は立場が上だが、自分が優位に立つときなどに使用する。 ・学会発表。目上の人と話すときのマナー。 ・多くの方が正しい敬語として使っているが、正しくない日本語なので、利用しないのが一番いいと思う 	7

今回の調査対象となる日本人大学生・大学院生100名に「させていただく」をよく耳にするか、また、よく使うかと聞いたが、その答えをまとめたのが表1である。表1を見ると、100名のうち73名がよく耳にすると答えたが、ここから、調査対象者の間では普段の生活の中で「させていただく」が頻繁に使用されているということが分かる。しかし、「よく使うか」という質問に

対して「はい」と答えた人が32名しかいないということから、学生という身分から会社のように頻繁に使用する機会は少ないのではないかと予測ができる。また、伊藤（2011）が指摘しているように、「させていただく」は、普段よく使われる敬語であるものの、商業現場で用いられることの多い敬語であるため、このような結果が出たと思われる。表2は「させていただく」を使用するときについての答えをまとめた表であるが、「相手に敬意を持っているとき」「適切な敬語が見つからないとき」「相手に気兼ねするとき」の順で選択した人が多かった。これは、井口（1995）の指摘のように、比較的若い世代が聞き手に配慮し自分の行為を謙り、丁寧な気持ちを表すために用いられる丁重法と呼べるものがあるとしたのとは一致する結果だと言えよう。

4.2 調査内容

「させていただく」の、一般的な敬語とは異なる性質を調べるため、以下の18文を用いて同じ例文に対し質問だけを変え、「させていただく」について尋ねてみた。質問は全4問で、その内容は以下の通りである。

1. () 内の場面設定を前提とし、以下の文の中で違和感を感じる文にチェックをしてください（2番からは質問の内容は省略する）。
2. 攻撃性を感じる文。
3. 敬意を表していると感じる文。
4. 決まりきった言い方だと感じる文。
5. 自己主張性が強いと感じる文。

アンケートに用いた例文は、以下の通りである（全18文）。

- 1（先生と学生が研究について話しています。先生が学生に意見を求めたときに、それに対して学生が）はい、言わせていただきますと、私はすごくいい方法だと思います。
- 2（会社で会議中、相手の意見に反論したいとき）一言、言わせていただきますと、私は、～のようにした方がいいと思いますが…
- 3（会社で部下が上司に）では、その企画は予定通りに進めさせていただきます。
- 4（営業マンがお客様に商品を勧誘しているときに）契約条件についてお話を進めさせていただきます。
- 5（会議が雑談になって進行していないときに司会者が）すみませんが、進めさせていただきますんですけど…
- 6（ライバルの会社の人に対して）今回は、何があっても必ず業界1位を獲得させていただきます。
- 7（会社の先輩に向かって）今回はゲットさせていただきます。
- 8（会社の社長に自分の決意を言いながら）精一杯頑張らせていただきます。

- 9 (目下の人が目上の人に) では、私はお先に帰らせていただきます。
- 10 (講義の講演者に対して) 今日は、本当に感動させていただきました。
- 11 (会社で会議中、相手の意見に反論したいとき) ちょっと、言わせていただきますと、私は、～のようにした方がいいと思います…
- 12 (発表会で) 発表させていただきます。
- 13 (申し込んだ人と振り込んだ人の名前が違っていても、実は同一人物だというお客様のメールに対し、返信のメールで) では、そのようにご理解させていただきます。
- 14 (大勢の人の前で自己紹介をするとき) 私は、2012年に〇〇高校を卒業させていただきました。
- 15 (裁判所に) 訴えさせていただきます。
- 16 (お店の店頭の張り紙で) 本日は、休ませていただきます。
- 17 (テレビ番組でリポーターが) すごくいい旅で、リフレッシュできて、すっかり元気にならさせていただきました。
- 18 (近所の人に) 私どもは、正月はハワイで過ごさせていただきます。

上述のように、本調査で用いた例文は「させていただく」の基本的な使い方から逸脱した用法を中心としたが、これらの例文の採集と選定基準は以下のとおりである。

- 1・2. これらの文は、外国人日本語学習者を対象とし調査を行う際、例文の中の「させていただく」の性質を正確に把握できるかをみるために作った文である。また、例文2に関しては、提示した五つの性質中、どのような性質が日本人に多く選択されるのか確認するための文。
- 3・8. 蒲谷 (1999) によるもの。
- 4・13. 伊藤 (2011) のいう商業敬語と呼ばれるもので、最近インターネットでよく見られるもの。
- 3・4・5. 「進める」という同一の動詞を使い、場面によって「させていただく」の性質が変わるのかをみるために作られた文。
- 6・7. 「得る」という同じ意味を持つ名詞である「ゲット」「獲得」を使い、場面によって「させていただく」の性質が変わるのかをみるために作った例文。
9. 『正しい敬語：そのまま使える会話例&言い換えフレーズ例』(2010) によるもの。
10. 2012年12月、紅白歌合戦の司会者である堀北真希さんの発言をそのまま場面だけを変えて作った例文。
11. 例文2と文は同様であるが、文頭に「ちょっと」という副詞を入れることにより、文のニュアンスが和らぐかどうかを調べるため作ったもの。
- 12・14. 話者自身を高くしないため最近よく用いられる決まり文句のようなものの一つ。
15. 元首相の発言を参考とし作った例文。
16. 伊藤 (2011) のいう「商業敬語」。

17. 米澤 (2001) によるもの。
 18. 菊地 (1997) によるもの。

5. 調査の結果及び分析

5.1 各例文に対する五つの項目の選択率

例文1～例文18に対し問題1から問題5まで、それぞれ「違和感・攻撃性・敬意・決まりきった言い方」と感じると答えた人の数を以下の表3のように示す⁽⁸⁾（ただし、重複選択可）。

表3 例文1～例文18の五つの項目を選択した人の人数

項目 例文	違和感 (問題1)	攻撃性 (問題2)	自己主張性 (問題5)	敬意 (問題3)	決まりきった 言い方 (問題4)
例文1	85	33	54	35	8
例文2	22	67	76	19	29
例文3	17	6	15	56	47
例文4	11	5	19	63	59
例文5	44	43	40	22	9
例文6	43	59	55	9	7
例文7	65	37	61	4	5
例文8	31	4	21	64	55
例文9	27	18	22	46	58
例文10	76	6	6	39	6
例文11	27	65	63	11	17
例文12	20	4	15	39	55
例文13	66	28	17	25	17
例文14	89	2	17	11	8
例文15	49	60	40	9	26
例文16	23	0	14	40	57
例文17	83	1	9	18	2
例文18	83	12	29	10	10

表3の各項目に対して、選択率が高かった上位5位までの例文の番号を以下のように示す（例文番号は数値が高い順に並べる）。

- ・「違和感」は、例文14・1・17・18・10を選択した人が多い。
- ・「攻撃性」は、例文2・11・15・6・5を選択した人が多い。

- ・「自己主張性」は、例文2・11・7・6・1を選択した人が多い。
- ・「敬意」は、例文8・4・3・9・16を選択した人が多い。
- ・「決まりきった言い方」は、例文4・9・16・8・12を選択した人が多い。

また、表3を見ると、それぞれの例文に対して、選択した人の人数は違うものの、一定の傾向があるのが分かる。その傾向を以下のように示す。

- ・「敬意と決まりきった言い方」の両方の数値が高いのは例文3・4・8・9・12・16である。
- ・「攻撃性と自己主張性」の両方の数値が高いのは例文2・11・6・15・7
- ・「攻撃性と自己主張性」が感じられ、かつ、「違和感」もある表現は例文1・7・15である。
- ・同じ表現「進めさせていただく」であるにもかかわらず、例文3・4は「敬意・決まりきった言い方」の両方の数値が高く、例文5は「攻撃性・自己主張性」の両方の数値が高い。

選択傾向について例を挙げる。例文2の選択傾向を見ると、「攻撃性」と「自己主張性」を選択した人が多く、「敬意」と「決まりきった言い方」を選択した人が少ないが、それとは反対に、例文3は、「敬意」と「決まりきった言い方」の選択が多く、「攻撃性」と「自己主張性」の選択が少ない。また、例文10のように「違和感」を感じるとした人が多い文は、それ以外の項目の選択が非常に少ないか、あるいは、それらの項目の間に大きな差がないということが分かる。

5.2 アンケートの結果から試みる例文の分析

ここでは、前章で述べた傾向にしたがひ、「させていただく」の拡大的な用法を以下のように整理する。

5.2.1 「違和感」を感じるとした例文

上記のように、「違和感」を感じるとした人が多い例文は、例文14・1・17・18・10である。この章では、これらの例文が「違和感」の数値が高い理由についての分析を行う（ただし、例文1の分析については他章に譲ることとする）。まず、問題1の「違和感」に関しては、国語辞典の記述⁽⁹⁾にしたがひ、「違和感を感じる」と選択した文は、「不自然で場面とふさわしい使い方ではない」と判断することにした。

「違和感」を感じるとした人が多い例文の中で、まず、例文14を挙げると、この例文は「敬語の指針」(2007)中に例文として挙げられている。ここでの説明通り、話者が「学校のおかげさま」という「感謝」の気持ちで、「学校の関係者」に言う場面であれば、「させていただく」を用いることは可能であると言える。しかし、例文14のように、学校とは全く関係のない大勢の人の前で自己紹介をする場面でこれを聞いている側としては、アンケートの結果（この例文に対し「違和感を感じる」とした人が調査対象100名のうち89名）と同様に、違和感を感じる人が多いと思われる。

また、例文17（本調査では調査対象100名のうち83名が違和感を感じるとした）も「違和感」を感じるとした人が多かった例文の一つであるが、米澤（2001）にあるように、リポーターは自分のことを視聴者の代表とみる心理から、視聴者の「おかげさま」で「旅行先で元な気持ちになって、ありがたい」というような気持ちで発言したとの推測ができなくはない。しかし、視聴者の立場からみると、「させる」という行動の許可者は、旅行に行かせてくれた放送局の人だという解釈もできる。そのような理由で、この例文は、放送局の人に対し「感謝」の気持ちを言っているかのようにも捉えられるため、「慇懃無礼」「謙りすぎてうとうしい」という印象を与える可能性もあるということから、例文17の「違和感」の数値が高かったと思われる。

例文18は菊地（1997）から引用した文である。菊地（1997）の調査によると、例文18に対し103名のうち93名が「×（不適切）」だと答え、(IV)「恩恵/許しを得てそうする」とは全く捉えられない場合」の例として挙げている。また、この例文に○をつけた5名は、「言語変化の兆しと見られる」と言っている。今回の調査でも、菊地（1997）と同様の結果が出たと言えよう。例文18の話者は、近所の人に正月をどこで過ごすのかについて言おうとしている場面である。しかし、この場面では話者が「正月をハワイで過ごす」のが、聞き手である近所の人への「許し」や「恩恵」を得る必要は全く要らないということが分かる。ただ、「正月にハワイに行きます」という「お知らせ」を丁寧に言おうとし「させていただく」を用いたという推測ができなくはないが、「させる」という使役者が不要の場面での「させていただく」の過剰使用ということで、「違和感」を感じるとした人が多かったのではないかと分析ができる。

例文10は、「違和感」を感じるとした人が多い理由として次のような二つの点から説明することができる。まず、一つ目は、例文10の話者である聴講者が聞き手である講演者に対し「本当にすばらしい講義でした。このような講義をしてくださって、ありがとうございます。」という「感謝」の気持ちを表すために、「感動させていただく」と言っているとの解釈もできるが、その「感謝」の気持ちを、あまりにも丁寧に言おうとしたのが、例文18のように過剰使用になってしまったのではないと思われる。

また、二つ目は、例文10に用いられた「感動」という単語の性質が「違和感」を感じさせた原因の一つであると考えられる。「感動」という名詞を『日本国語大辞典 第二版』では、「美しいものやすばらしいことに接して強い印象を受け、心を奪われること。」と記述している。辞書の記述のように、「感動」をするという行為は、すばらしいことに接して自然にそうなるものであり、誰かの「許し」や「恩恵」を得てから「感動」するようになるものではない。つまり、これは、接したものに自然に自分の心が動かされるという受け身型であり、「感動」という行動の使役者がなくても成立することである。そのような点から、日本語母語話者は例文10に「違和感」を感じるとした人の数値が高かったと思われる。

5.2.2 「敬意」・「決まりきった言い方」を感じる例文と「攻撃性」・「自己主張性」を感じる例文

例文3・4・5は、「進めさせていただく」という同じ表現である。しかし、表現が同じであ

るにも関わらず、例文3・4は「敬意」・「決まりきった言い方」を選択した人が例文3は、56・47人、例文4は、63・59人おり、例文5は「攻撃性」・「自己主張性」を選択した人が43・40人であり、反対の結果を示している。

その理由としては、まず、例文3は、文脈上で「上司の許しを得て企画を進める」という推測ができる。また、例文4は、営業マンはお客様の「おかげさま」で、自分の成果を上げることができ、お客様に対する「感謝」の気持ちから「させていただく」を用いたと読み取ることができる。そのため、例文3と4においては、このような結果が出たと思われる。

しかし、例文5は、言葉自体は「させていただく」を使い、表では丁寧さを装った言い方をしているが、その意味を考えてみると、「会議に参加している人たちの雑談で円滑に会議を進めることが難しいので、みんな静かにしてください」を待遇度だけを上げて表現したと言えるだろう。また、『日本国語大辞典 第二版』で「進める」という動詞は、「予定の手順に従って、物事を進行させる。はかどらせる。」と記述している。このような意味を各例文に照らし合わせてみると、例文4は、聞き手である「お客様」の「許し」「恩恵」を得て、聞き手を高め相手のために物事を「進行」させることである。しかし、例文5は、聞き手の「許し」とは関係なく話者自身のために「進行」させることになるとの解釈ができるため、同じ動詞であってもこのように異なる結果が出たと思われる。

5.2.2.1 「敬意」・「決まりきった言い方」を感じるとした例文

例18文のうち、その選択において「敬意」と「決まりきった言い方」の両方の数値が高いのは、例文3・4・8・9・12・16である。例文8では、聞き手である「社長」の「許し」を得て、「どんな困難があっても乗り越え、これからも会社のために一生懸命に努力します」というような気持ちを「社長」という聞き手に「感謝」「ありがたい」「おかげさま」という気持ちをさらに丁寧に言いたかったと考えられる。また、例文9は、『正しい敬語:そのまま使える会話例&言い換えフレーズ例』(2010) など、日本人向けの敬語ガイドブックでは、「お先に帰らせていただきます」という文を「お先に失礼させていただきます」と同様に、会社や公的な場所から離れるときに、言わなければならない挨拶の一つとして、これらの文を例として挙げており、また、この挨拶をするのは、社会人のマナーであると説明している。このように、この場面では、聞き手が目上の人であるため、話者である目下の人、聞き手である目上の人を高めるために、「させていただく」を用いたと考えられる。例文12は、アンケート調査のその他の意見として「学会の発表のとき」との答えがあった通り、発表のような公式的な場で使える挨拶のようなものと、すでに日本語母語話者はそのように認識しているのではないかと思う。この例文は、「敬語の指針」(2007)にも一つの例として挙げられている。

ア) 相手側又は第三者の許可を受けて行い、

イ) そのことで恩恵を受けるという事実や気持ちのある場合に使われる。

ア) とイ)、どちらかの条件さえ満たしていれば、適切な例だと説明している。例文16は、例文16について伊藤(2011)では、この文を「客を意識した「使役・許可者」の見立てが可能を表

現。定型句として、頻用されるもの」としている。このように、お客様の「恩恵」や「許し」を得て、「今日は休みます」という解釈ができなくはないため、菊地（1997）の4分類からいうと、（Ⅲ）「恩恵/許しを得てそうする」と（辛うじて）見立てることができる場合」に当たる文であり、そのような理由から、例文16に「敬意・決まりきった言い方」だと感じる人が多かったと思われる。

5.2.2.2 「攻撃性」・「自己主張性」を感じるとした例文と「違和感」・「攻撃性」・「自己主張性」を感じるとした例文①

例18文のうち、その選択において「攻撃性」・「自己主張性」の両方の選択が多かったのは、例文2・11・6・15・7・5・1である。また、「攻撃性」と「自己主張性」が感じられ、かつ、「違和感」もある表現は例文1・15・7である。

まず、「攻撃性」・「自己主張性」の両方の選択が多かった例文の全体的な傾向を述べると、例文1・2・11を除き、例文5を含め例文6・15・7は、上にも述べたように、話者自身の意見を丁寧に述べるために「させていただく」を用いただけで、これらの用法は、正に井口（1995）・李（1998）でいう「謙譲語B」としての用法に近いと言える。

しかし、これらの例文の特徴は、井口（1995）・李（1998）が言う「謙譲語B」の用法に近い性質を持ちつつも、話者が用いた「させていただく」に聞き手は「自己主張性」や「攻撃性」を感じられたことである。このようなことから、本来謙譲語である「させていただく」の意味用法の範疇がさらに拡大されたことを意味すると思われる。

また、「攻撃性」と「自己主張性」が感じられ、かつ、「違和感」もある表現は例文1・15・7であるが、これらの例文は何故、例文2・11・6・5より「違和感」の数値が高かろうか。その理由として考えられるのは、例文の中の聞き手である人物から説明できる。例文1・15・7の聞き手は、それぞれ先生・裁判所・会社の先輩で、文中の話者より上位者である。そのため、日本人母語話者は、上位者に対して「自己主張性」や「攻撃性」を表しているような「させていただく」の使用は不自然であると判断しているとの推測ができる。

他方、例文2・11・6・5のように、文中の話者が聞き手に対し明らかに反論できるような同レベルの人物であったり、又は、話者自身が自分の意見を披瀝できる人物であれば、日本人母語話者は、「違和感」はあまり感じることなく、「自己主張性」や「攻撃性」の性質を帯びている「させていただく」の使用においては、それほど抵抗感はないものと判断できよう。

5.2.2.3 「攻撃性」・「自己主張性」を感じるとした例文②

ここでは、例文1と2を例に挙げ、比較を行う。アンケート調査の結果を見ると、例文2は、「攻撃性」・「自己主張性」を感じるとした人が一番多かった例文であり、「攻撃性」・「自己主張性」を感じるとした例文の中で、この例文だけが唯一に「違和感」を感じるを選択した人が少ない例文である。このような場面で使われた「させていただく」は、表現自体は「させていただく」を使っているため、丁寧に言っているかのように見えるが、その背景を考えると、話者は自分が言

いたいことを言うためにこの表現を用いただけで、「(聞き手である) あなたが何と言おうと言わせてもらう」との解釈ができ、このような表現は相手に圧力をかけているかのようにも読み取れる。

また、例文1も同じ「言わせていただきます」を入れた例文となるが、先生に対しこのような表現を使うということは、「違和感」を感じるとした人が85名で非常に多かったということから、日本人は「言わせていただきます」は、その文の中に、「攻撃性」と「自己主張性」を持っている表現という認識が強く、相手の意見や話などに反対する意見を述べる時に用いる表現という意識をしているという推測ができる。

即ち、話す自身の意見を述べるための表現としてその機能にフォーカスされ、今の若年層は「言わせていただきます」に関しては、そのような機能が中心となっていると思われる。このようなことから、「言わせていただく」という表現は、「させていただく」の使用範囲の拡大要因の一つと呼ばれる「謙譲語B」としての用法の使用領域をすでに超え、現代日本語の中で話者の意見を聞き手に対して強く主張したいときに使用する一つの特殊な表現として位置づけをしているのではないと思われる。

6. 調査結果のまとめ

今回は、これからの「させていただく」の変化の方向性をみるために、日本人大学生を対象とし調査を行い考察したものである。本調査では、主に「拡大用法」としての文だけを使用したのが、調査に用いた例文の選択において、以下のような特徴が見られた。

I 「違和感」の数値が高い場合

話者の行動において、特定できる使役者が存在しておらず、ただ話者が丁寧に話すために用いた「させていただく」。

II 「敬意と決まりきった言い方」の両方の数値が高い場合

文脈上、行動の許可者や恩恵の授与者がいるとの推測ができる場合の「させていただく」。

III 「攻撃性と自己主張性」の両方の数値が高い場合

i 「攻撃性と自己主張性」の両方の数値が高い「させていただく」。

「させていただく」が使われた表現の中の聞き手が、話者との関係において地位などが同等かまたは話し手の方が上位の人物である場合の「させていただく」。

ii 「攻撃性と自己主張性」の両方の数値が高く、かつ、「違和感」の数値も高い場合

「させていただく」が使われた表現の中の聞き手が、話者より上位者である場合の「させていただく」。

IV 同じ単語であっても「させていただく」の選択の数値が違う場合

i 「敬意」と「決まりきった言い方」の両方の数値が高い「させていただく」

上記のIIと同様に、文脈上、行動の許可者や恩恵の授与者がいるとの推測ができる場合の「さ

せていただく」

ii 「攻撃性・自己主張性」の両方の数値が高い「させていただく」

上記のⅢ-iと同様に、「させていただく」が使われた表現の中の聞き手が、話者との関係において地位などが、同レベルか話し手の方が上位の人物である場合の「させていただく」。

上記のまとめで分かるように、今の大学生は、「拡大用法」としての「させていただく」について、ⅠとⅢ-iiのような表現については、「違和感」を感じるとし、自然な表現ではないと判断している傾向を見せているが、ⅡとⅢ-i（Ⅳも含めて）のような表現に関しては、「違和感」があまり感じられず、自然な表現であると判断している傾向を見せている。このような選択傾向から、「させていただく」の「拡大用法」の中には、「敬意」をもつ「謙譲語」としての「させていただく」は勿論、「攻撃性」や「自己主張性」をもつ「させていただく」も「拡大用法」として存在することが確認できた（ただし、Ⅲ-iiのように、聞き手が話し手より上位者の場合は除く）。

また、本来ならば、「させていただく」の使い方において、「拡大用法」というのは、ふさわしくない表現であるが、調査結果から「拡大用法」の中でも一定の表現については、「違和感」を感じることなく、受け入れているということが分かる。したがって、これからの「させていただく」は、必ずしも「謙譲語」として存在せず、さらに変質した「させていただく」の表現も出てくる可能性があることを示唆する。

7. おわりに

「させていただく」という言葉は「敬語の指針」(2007)にも「させていただく」の使い方の問題⁽¹⁰⁾という一つの項目として挙げられているほど、その使い方の適切さについて議論されることの多い表現である。その議論の中心となっているのは、「させていただく」の拡大された用法で、本稿ではそのような用法について分析することを試みた。分析の際は、菊地（1997）の分類や米澤（2001）の分類だけでは「させていただく」の性質を十分に説明できないところがあるため、本稿ではさらに詳細に「させていただく」の性質を明らかにした。本調査で確認できた性質を菊地（1997）の分類の4タイプと比較して、以下の表4に示す。

また、米澤（2001）は、拡大用法を説明する際に、「させていただく」を誤用とされる表現も聞き手を尊重する「おかげさまの発想」に支えられていると述べているが、確かに「させていただく」の拡大的な用法の性質の一部と重なるところはある。しかし、本調査の結果を見ると、「させていただく」の拡大的な用法の性質の一つとして、聞き手に「攻撃性」・「自己主張性」も感じさせるという性質も明らかになったため、米澤（2001）の「おかげさまの発想」だけでは説明不足であると言える。

今回は、先行研究などで採集した例文を用い、日本人母語話者を対象とした実態調査とその考察に留まったが、実態調査で確認された「させていただく」の拡大的な用法の性質を実際の用例などでもこれらの性質を再確認した上で、考察する必要があると思われる。

表4 菊地（1997）の分類との比較

	謙譲語としての 「させていただく」の分類		謙譲語としての性質を失ったときの 「させていただく」	
菊地（1997） での分類	(Ⅱ)“恩恵/許しを得て そうする”と捉えられる 場合（「拡張」）	(Ⅳ)“恩恵/許しを得て そうする”とは全く 捉えられない場合	/	
	(Ⅲ)“恩恵/許しを得て そうする”と（辛うじて） 見立てることができる 場合			
本研究での 分類	「敬意・決まりきった 言い方」だと感じる 表現	「違和感」を感じる表 現	「自己主張性・攻撃性」 の両方が感じられ、 かつ、「違和感」を感 じる表現	「違和感」は感じない が、「自己主張性・攻 撃性」を感じる表現

注

- (1) 使役形の「させる」は、五段動詞では「動詞の未然形+せる」、一段動詞では「動詞の未然形+させる」になるが、本研究では、併せて「させていただく」と表記する。ただし、引用の場合はその本文に従い表記する。
- (2) 菊池（1997）でいう謙譲語Aは、2007年文化審議会の国語分科会で提出した「敬語の指針」の謙譲語Ⅰに該当する。謙譲語Ⅰは、「差し上げる」「申し上げる」などがある。
- (3) 謙譲語Bは、「敬語の指針」の謙譲語Ⅱに該当する。「申す」「まいる」「おる」「存じる」などがある。
- (4) 補助動詞のことを「授受動詞」「やりもらい動詞」とする説もあるが、米澤（2001）は、宮地（1982）に従っているという。
- (5) 本稿では、「拡大的な用法」・「拡大用法」としているが、引用の際は、本文に従い、ここでは「拡張用法」とそのまま表記する。
- (6) 例文を作る際、蒲谷（2013）の調査方法を参考とし、それぞれの例文の中に場面を設定することにした。蒲谷（2013）では、以下のように述べている。「場」とは、コミュニケーション主体が認識する、コミュニケーション主体がコミュニケーション行為を行う時間的（文脈・経緯）および空間的（状況・雰囲気）な位置のことである。「場面」は、「人間関係」に関する認識と「場」に関する認識が融合したものであり、コミュニケーション主体が認識する「いつ・どこで・どのような状況で・だれが・だれに・だれのことを」という枠組みである。待遇コミュニケーションにおいて、「場面」は最重要の枠組みであり、他のすべての枠組みに大きな影響や制約を与えつつ、状況に応じて変容していく動態性の高いものだといえる。
- (7) しかし、本稿では、日本人母語話者を対象とした調査結果だけを扱う。
- (8) 例文11は、「ちょっと」という副詞を入れることにより異なる結果が出ることを期待していたが、例文2とほぼ同結果が出た。

(9) 『日本国語大辞典第二番』では「調和を失った感じ。他と合わない感じ。しっくりしない感じ。」と記述しており、『大辞林』では「周りのものとの関係がちぐはぐで、しっくりしないこと。」と記述している。

(10) 「敬語の指針」(2007) pp.40-41

【参考文献】

- 庵功雄・中西久実子・高梨信乃・山田敏弘・白川博之 (2001)『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』エリーエーネットワーク
- 井口裕子 (1995)「謙讓表現「……(さ)せていただく」について—結婚披露宴における使用例を中心に—」『國學院雑誌』96巻11号
- 伊藤博美 (2011)「「(さ)せていただく」表現における自然度と判断要因」『日本語学論集』第7号
- 李炳萬 (1998)「現代日本語の敬語「(さ)せていただく」考」『野州国文学』61、國學院大學栃木短期大學
- 宇都宮陽子 (2006)「～(さ)せていただく」の「行動の許可者」に関する考察—「行動展開表現」と「理解要請表現」の観点から—『早稲田大学日本語研究』15
- 蒲谷宏 (1999)「させていただく」『言語』28巻5号 大修館書店
- (2013)『待遇コミュニケーション論』大修館書店
- 株式会社スピーキングエッセイ (2010)『正しい敬語：そのまま使える会話例&言い換えフレーズ例』秀和システム
- 菊地康人 (1994)『敬語』角川書店
- (1996)『敬語再入門』丸善ライブラリー
- (1997)「変わりゆく「させていただく」」『言語』26巻6号 大修館書店
- 北原保雄 (1981)『日本語助動詞の研究』大修館書店
- 小池清治 (2006)「「ご利用いただけます」の歴史—謙讓語の改まり語化、商業敬語の影響—」『宇都宮大学国際学部研究論集』第22号
- 辻村敏樹 (1968)『敬語の史的研究』東京堂出版
- (1991a)「日本語の敬語の構造と特色」『岩波講座日本語4 敬語』岩波書店
- (1991b)『敬語の用法』角川書店
- (1992)『敬語論考』明治書院
- 文化審議会 (2007)「敬語の指針」文化庁HP (<http://www.bunka.go.jp/index.html>)
- 松本修 (2008)「東京における「させていただく」」『関西大学国文学会』
- 宮地裕 (1982)「敬語史論」『講座日本語学』9 明治書店
- 米澤昌子 (2001)「待遇表現としての使役形を伴う受給補助動詞—「～(さ)せていただく」の用法の考察を中心に—」『同志社大学留学生別科紀要』

【参考辞典】

『新明解国語辞典 第四版』(1989) 三省堂

『日本国語大辞典 第二版』(2001) 小学館

【韓国語の参考書籍】

성중경 (2010)『시나공 JLPT 일본어능력시험 N1 문법』길벗이지톡

ソン・ジュンキョン (2010)『シナゴン JLPT 日本語能力試験N1 文法』キルボツイジトク

이치우 (2010)『신 일본어능력시험 문법 콕콕 찌어주마 N1대비』다락원

イ・チウ (2010)『新日本語能力試験 文法 コクコクチゴジュマN1対備』タラクウォン

(い・ひょんじん 首都大学東京大学院 博士後期課程)